

#001

新風吹く 道南へ

噴火湾を北上して
幕末から明治の
歴史ロマンを探訪

今春、北海道新幹線の開通で注目を浴びる道南エリアは、中世から本州との交流が盛んな北海道発祥の地として知られている。ペリー率いる黒船が来航したとき、函館は下田と並んで国内で最も早く貿易港として開港。独自のハイカラ文化が生まれ、異国情緒溢れる街へと発展していった。

一方、明治維新直後、日本を二分する戊辰戦争が起これり、戦線は徐々に北上。最終局面である箱館戦争が勃発し、榎本武揚や土方歳三をはじめとする旧幕府軍は、五稜郭で明治新政府と最後まで戦い続け、土方歳三はこの地で終焉を迎えた。

明治時代を迎えて北海道開拓が始まるなか、初めて本格的に取り組んだのは、道南エリアにある伊達市。仙台藩の伊達家の分家である巨理^{むつり}伊達家が、家臣の窮地を救うために新天地に渡り、近代化を担っていった。

今回は噴火湾に沿って北上し、幕末から明治維新までの激動の時代に活躍した人々の生きざまや功績を辿ってみた。



▲ 函館山からの眺望

▶ 道の駅 みそぎの郷きこない

地元産の道南杉をふんだんに使った温かみのある空間。「寒中みそぎ祭り」初日の平成28年1月13日、北海道新幹線よりも早くにオープンした



▲ 北海道新幹線

北海道に咲くラベンダーのイメージから、彩香パープルのラインを使用。スピード感のあるデザインが印象的だ



▶ 道の駅の建物前には愛らしい『キーコ』の郵便ポストが



◀ 安政4(1857)年にオランダで建造された軍艦「咸臨丸」の船体モニュメント

幕末に初めて太平洋を横断した咸臨丸終焉の地へ
旅は木古内駅からスタート。北海道新幹線が青函トンネルを通り抜けて北海道に最初に停車する駅が平成28年3月26日の開業で新設された。人口約4500人の小さな町は、室町時代から和人が定住していた記録が残る北海道の中でも古い歴史を持つ。江戸時代から続く伝統神事「寒中みそぎ祭り」が有名で、毎年1月には全国から観光客が訪れるそう。新幹線を降りて南口に出ると、「道の駅みそぎの郷きこない」があり、はこだて和牛をモチーフにしたご当

地キャラクター「キーコ」がお出迎え。店内には地元の海の幸や山の幸を使った特産品の数々が販売され、多くの人で賑わっていた。
そして木古内町で忘れてならないのは、幕末期に初めて太平洋を横断した船として名高い軍艦・咸臨丸終焉の地であることだ。勝海舟や福沢諭吉らに乗せて浦賀を出航し、38日間の航海でサンフランシスコに着。初の太平洋横断の快挙を成し遂げ、日本近代化の一躍を担った。そんな栄光を放った船がどのような最期を迎えたのか。早速、終焉の地であるサラキ岬へと向かった。

▼ 咸臨丸が眠るサラキ岬





▲ **トラピスト修道院**
正式名称は厳律シトー会灯台の聖母大修道院。明治29(1896)年にフランス、オランダ、イタリア、カナダから総勢9人の修道士たちがこの地を訪れて創設した

▼ **並木道**
トラピスト修道院へと続く道の並木は、杉520本、ポプラ69本が植えられており、環境緑地保護地区に指定されている



北海道ならではの自然美 ダイナミックな風景は圧巻

大きな看板と船のモニュメントがそびえるサラキ岬は、すぐに見つかった。函館山を望む美しい場所だが、岬の岩礁は沖合いに浅く突き出ているため、船が座礁を繰り返した海の難所と言われている。

咸臨丸が座礁したのは明治4(1871)年。戊辰戦争に敗れて北海道移住を余儀なくされた、仙台藩の家臣である白石城主の片倉小十郎と401人の家臣を乗せた船は、この地で役割を終えた。多くの人の夢を乗せ、激動の歴史の渦に巻き込まれた咸臨丸の14年間の軌跡は、記念碑に

刻まれ、今でも人々の心の中に生きている。

咸臨丸に別れを告げ、木古内町から函館市へと向かう途中、日本初のカトリック男子修道院であるトラピスト修道院に立ち寄った。ここでは、農耕や牧畜が行われ、新鮮素材でつくるとるトラピストバターやクッキーは、北海道みやげとして人気が高い。修道院へと続く一本道とその両脇に連なる杉とポプラの並木の風景は、青空と緑のコントラストがとても美しく感動に値する。

さらに車中から、函館山に向かって延びる2キロの海上栈橋を発見し、北海道のスケールの大きさを直に感じた。



▲ **太平洋セメント上磯工場**
現在稼働中のセメント工場としては国内最古、明治23(1890)年に創業を開始。国道から見えるセメントサイロはPC製

▼ **海上栈橋**
セメントを大型船に積み込む、2kmにおよぶ海上栈橋は印象的





箱館戦争と五稜郭、 最後まで戦い抜いた土方歳三

函館市内に到着して、最初に訪れた五稜郭は、ペリー来航をきっかけに誕生。開国要求を認めた徳川幕府は、函館を治めるために函館山のふもとに箱館奉行所を設置した。その後、防衛上の問題から現在の場所に五稜郭を建設し、弁天岬に台場砲台のある要塞）を設けた。これらの設計を担った蘭学者の武田斐三郎は、ヨーロッパの各地に造られた城塞都市をヒントに五角形の珍しい要塞を考案した。

戊辰戦争のときには、オランダ留学を経て幕府の海軍副総裁になった

榎本武揚や新撰組副長の土方歳三らが率いる旧幕府軍が蝦夷地へ上陸して五稜郭を占拠。榎本武揚を総裁とする蝦夷地仮政権が樹立された。そして翌年の明治2(1869)年5月11日に明治新政府軍が箱館総攻撃を行い、箱館戦争が始まった。

やがて旧幕府軍の最大の砦であった弁天岬台場がほとんど壊滅状態に仲間たちの救出と奪回を目指し、土方歳三は部下を引き連れて五稜郭から出陣。途中の一本木関門付近で銃弾を受けて落馬し、側近が駆けつけたときは絶命していたようだ。函館市総合福祉センターの敷地内の若松緑地公園に碑が建立されている。

▲ 五稜郭

美しい星形をした5つの突起は稜堡(りょうほ)と呼ばれる大砲の設置場所。敵に十字砲火を浴びせることができ、どの方向からも死角がない理想的要塞として考案された

▼ 土方歳三最期之地碑

新撰組イケメン鬼副長ファンが多く訪れるそう



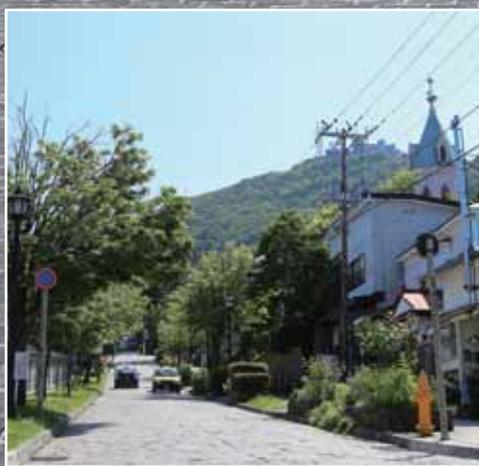
多発する大火への対策が 函館らしい街並みをつくる

街を散策してみる。函館らしい街並みといえば、真つすぐに伸びる広い坂道から港を見下ろす見晴らしのいい風景。テレビや映画のロケ地としても有名だ。

そんな風景が広がるのが函館山と函館港に囲まれた西部地区。江戸から明治にかけて函館といえば、西部地区を指していたと言ってもいいほど銀行や病院、寺院、店舗などが集約されていた。

このエリアを語るうえで不可欠なのが、明治時代に多発した大火だ。明治以降に28回も発生。市街地の半分以上を焼失した明治40（1907）年の大火と死者2000人を超える大惨事となった昭和9（1934）年の函館大火は特に大きな被害をもたらした。そこで入り組んだ細い坂道が多く、建物が密集していた街を長年の都市計画により現在のような街並みに整備していった。

西部地区には八幡坂や弥生坂など19の坂があるが、そのひとつの二十間坂は、道幅を二十間（36メートル）に広げたことが名前の由来に。それぞれに個性溢れる坂を歩き、目にするハイカラな洋館や教会、寺院などに異国情緒を感じた。



▲ 西部地区の景色

函館港へと真つすぐに伸びた坂道からの眺めは壮観。緑がめく木々どこまでも続く青い空と海の景色はまるで絵画のよう。下から上を見上げると函館山を一望できる



▲ 東本願寺函館別院
堂々とそびえる寺院の大屋根や塀の瓦の数は約3万3000枚にも
のぼる。国指定重要文化財



▶ 最古の鉄筋コンクリート製電柱
当時の電柱は円柱の木製が
主流だったが防災と周辺の
建物との調和を考慮して鉄筋
コンクリート造りになった



▶ 函館の海の幸
脂ののったホッケや透明感のある
プリプリのイカソーメンなど、新
鮮な魚介の美味しさを堪能した

日本初や日本最古の 珍しい建物が今も多く残る街

開港当時の中心地であった西部地区は、日本初や日本最古の建物が多く存在する。二十間坂沿いにある東本願寺函館別院は、日本初の鉄筋コンクリート製寺院。明治40（1907）年の大火で焼失したため、耐火建築で再建されることになった。しかし、市民から「人々に踏まれた土・砂で寺院が建てられるとは先祖様に申し訳ない」とや「寺院の大きな屋根をコンクリートで支えられるのか」などの声が出て寄付がなかなか集まらない。そこで建築途中のコンクリート製高床に芸者を上げて手踊りをさせて、安心させたというユニークなエ

ピソードが残っている。

人気スポットの赤レンガ倉庫の近くには、大正12（1923）年に造られた日本最古の鉄筋コンクリート製電柱がある。円柱ではなく角柱というのが珍しい。後に同じ形の柱が近くに造られ、「夫婦電柱」と呼ばれるようになり、現在も現役で活躍している。

見どころが小さなエリアに凝縮されている函館市は、ゆつたりと歩きながら多彩なスポットを楽しめる街だ。途中で道南に17店舗を展開する人気のバーガーショップでランチを取り、函館ロープウェイに乗って函館市街を一望。夜は函館駅前でイカソーメンやホッケなどの海の幸をたっぷりと味わった。



▲ バーガーショップ「ラッキービエロ」
函館出身のGLAYが通っていたことでも有名。
人気No.1はボリュームたっぷりのチャイニーズチキンバーガー



▼ 旧幕軍 榎本武揚 土方歳三 之鷺ノ木上陸地
このエリアは箱館戦争時に複数の台場が作られ、
また負傷者や病人の療養地となった



榎本武揚率いる旧幕府軍 2000人が上陸した森町

翌日は、函館から国道5号線を走り、約40キロ先にある森町へと向かう。その途中、『旧幕軍 榎本武揚 土方歳三之鷺ノ木上陸地』という木柱を見つけた。

明治元（1868）年10月20日、榎本武揚は軍艦8隻と2000人以上の兵を率いて上陸。その日は積雪30センチの暴風雪だったと言われている。駒ヶ岳を望む穏やかな風景からは想像しがたい天候だ。翌日には先発隊が、待ち構えていた官軍と激戦となり、箱館戦争が始まった。ふと時計を見て現実の世界に立ち

戻り、急いで函館本線・森駅へ。売店で名物『いかめし』の出来たてを買い、近くの鳥崎川河川公園で食べることにした。鳥崎川下流に芝生の広場が点在する公園は、地域の人たちがグラウンドゴルフや散策をする憩いの場。公園の中央を流れる鳥崎川に架かるのが、望景橋という歩道橋だ。

橋の幅は、魚の胴体のようになだらかな曲線を描いて中央が広くなり、そこに背ビレを思わせるものがある。脇に設置されたベンチに座ってみると川のせせらぎが聞こえて心地いい。ここで『いかめし』をばくり。ほんのり温かくて柔らかい、中のごはんは白くツヤツヤだった。



▶ 森町名物『いかめし』
全国的にも有名な駅弁は
JR 森駅で9時から販売。出来たてを
食べられるのは、地元ならではの贅沢



▲▶ 望景橋
魚の背ビレ（フィンバック）を有する大偏心外ケーブルトラス構造を
世界で初めて適用した2径間連続PC橋

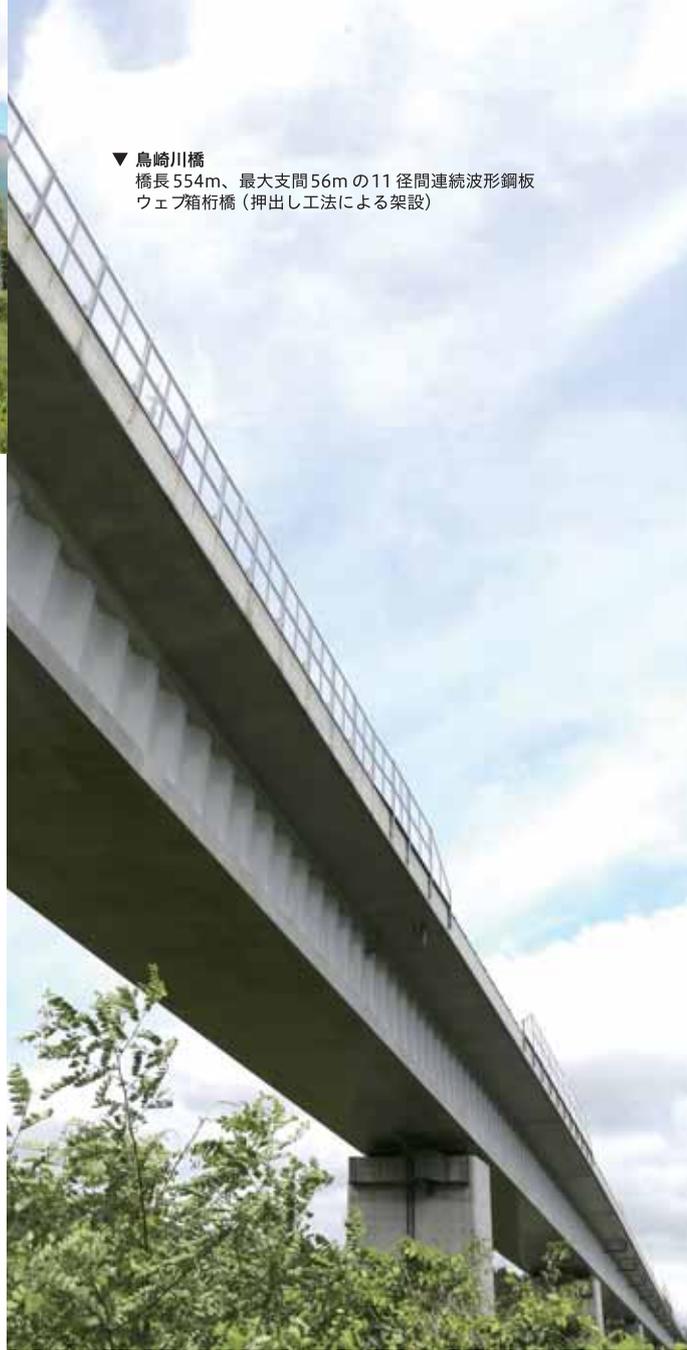




▲ 洞爺湖
湖の中央にある島は、約5万年前の湖底の噴火活動で隆起した溶岩ドームが固まったものと言われる



▲ 上姫川橋
橋長80m、世界初のPRC工法の3径間連続ラーメン箱桁橋。PCとRCの長所を活かした橋梁



▼ 鳥崎川橋
橋長554m、最大支間56mの11径間連続波形鋼板ウェブ箱桁橋（押し出し工法による架設）

森町から「北の湘南」と言われる伊達市へと向かう。波形鋼板ウェブが特徴の鳥崎川橋や世界初のPRCラーメン橋である上姫川橋を渡り、噴火湾に沿って走る道央自動車道へ。伊達ICのひとつ手前の虻田洞爺湖ICを降りて洞爺湖に寄り道した。

平成20年の洞爺湖サミットで注目を浴びた洞爺湖は、北海道にある屈斜路湖、支笏湖に次いで国内で3番目に大きなカルデラ湖で、約11万年前の巨大な噴火により誕生した。湖の中央には4つの島があり、時折、穏

高速道路の橋では日本最長 噴火湾と山々を望む穴場スポット

やかな湖面を遊覧船がゆつくりと周回していく風景は、初めて観るのになぜか懐かしく、心が癒された。

この道央自動車道の伊達ICー虻田洞爺湖IC間には、長流川橋という高速道路としては日本最長の橋があると聞き、行ってみることに。その橋長は1772・5メートル。約20〜40メートルの高い所に橋桁が連なり、上空でゆるやかにカーブを描く景色は、これまでに見たことのないくらい雄大。北には有珠山と昭和新山、南には噴火湾を望み、橋の下面に広がる畑には、トウモロコシが実をつける。この素晴らしい景色と橋を写真に収めるのは至難の業だった。

▼ 長流川橋（おさるがわばし）
橋長1772.5m、最大支間105.5mの連続ラーメン箱桁橋。片持架設工法、大型移動支保工、固定支保工により施工



北海道開拓の先陣を切った 巨理伊達家の精神にふれる

明治以降、本格的な北海道の開拓に初めて取り組んだ伊達市で先陣を切ったのが巨理伊達家。最後に訪れた開拓記念館には、当時の資料や文化財の数々が展示されている。

巨理伊達家は、独眼流で有名な伊達政宗の父・輝宗の叔父である実元・成実親子を祖とする分家。仙台藩の重鎮として現在の宮城県巨理町を所領していた。しかし、仙台藩は戊辰戦争の戦いに敗れ、62万石から28万石に厳封され、巨理伊達家はわずか58石に。当時の領主・伊達邦成は、家老

の田村顕允からの提言で、武士の面目を保ちながら北海道の警備と開拓に挑むことに。新政府が示した伊達市に2800余人が移住した。

巨理伊達家は自費による開拓だったため、家財は3万両の費用を調達するために売られていった。海を渡る事ができたのは、甲冑や櫛、鏡など。歴代の奥方の御遺物として伝わる45体もの豪華なひな人形は、辛く苦勞の多かった当時の人々の心をなぐさめた。

寒冷地帯の荒野で農作物を栽培することは困難の連続だったが、田村顕允の力を借りて近代農業の礎を築く。明治10（1877）年にはクラ-

ク博士が立ち寄り、「ビート（てん菜）を植える」「西洋農具の活用」「酪農への取り組み」の3つの進言をしたそうだ。

巨理町が丸ごと移住し、全員で窮地を脱した話を館長から聞き、そのフロンティア精神に胸が熱くなった。

今回の道南エリアの旅は、激動の時代の中で新しい風を吹かせた人々の軌跡を巡りながら壮大なスケールの自然を堪能し、パワーをもらった。彼らの足元にも及ばないかもしれないが、自分もテーマを見つけて一生懸命に挑みたい。そんな前向きな気持ちに駆られた。



▲ 伊達市開拓記念館
伊達家に代々伝わる文化財を広く一般に公開。7000坪の広大な敷地には迎賓館などの歴史的建築物があり、見学もできる（上段は伊達邦成像）





p.8-9 長流川橋



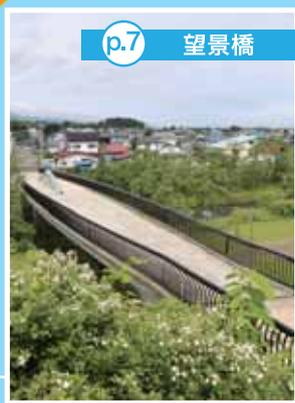
シラリカ川橋



遊楽部川橋



p.7 望景橋



p.8 鳥崎川橋



p.8 上姫川橋



館野高架橋



茂辺地高架橋



p.3 太平洋セメント上磯工場



道の駅
みそぎの里
きこない



新風吹く
道南へ
噴火湾を北上して幕末から
明治の歴史ロマンを探訪

PC橋梁 MAP